

横浜市小学校社会科研究会

4 学年部会

研修会記録

第 6 号

令和5年 12月 6日

横浜市小学校教育研究会

会長 濱田 哲也

横浜市小学校社会科研究会

会長 加藤 和之

同 学年部長 本間 宏志

【提案日時】

11月 1日 (水)

提案 遠藤 恭兵 先生 (白幡小)

【会 場】

横浜市立平沼小学校

司会 藤原 佳澄 先生 (新鶴見小)

記録 戸川 真理子先生 (稲荷台小)

1 提案内容 単元名

単元名「受け継がれる「浦賀の虎踊り」～300年続く伝統の獅子舞～」

2 提案者より

児童の実態として、学級の半数以上の児童が地域の祭りに参加する一方で、祭りの歴史的な背景は知らない。また、本単元で取り扱う浦賀につながるのある児童はいない。子ども達が自分事として捉えるための工夫としては、様々な無形民俗文化財を類別する際に、神奈川県内で獅子舞が多く行われていることに目が向くようにする。また、保存会会長の「今後も和藤内は子どもに演じてほしい」という思いと、和藤内の大人用の衣装が用意されている事象に焦点化し、自分事として捉えられるような資料の工夫を行う。

視点① 子どもが問いや見通しをもち、主体的に学ぶ単元づくり

Wチャートを用いて、「神奈川県無形民俗マップ」から祭りを類別することで、獅子舞の多さに注目する。また、ベン図を用いて浦賀の虎踊りの運営面と歴史に関する内容を「過去」と「未来」の視点で整理し、今後の運営面の課題を見だし、追究することで、本気の学習問題の成立につなげる。

視点② 個を生かし、協働的に学びを深める授業づくり

抽出児童や支援が必要な児童が学習問題に対する自分の考えがもてるように、「ふり返し（自分の考え）支援シート」を活用する。授業のふり返しでは、支援を要する児童にモデルとなる記述を紹介し、その記述を模倣してふり返りの視点のもち方を粘り強く学ぶ。様々な立場の人間が伝統を守る努力をしていることや、思いがあることを、「未来と過去」「伝統と革新」「継続と中止」の視点に沿って板書し、整理する。

3 協議会

主に視点② 本時について

- ・話し合いをするなかで、役員の方のNさんの思いに立ち戻れると良い。
- ・色々な人の思いから考えられると良い。

- 大人用の衣装はいつから考え始め、どんな思いで購入したか、年表に入れると良い。
- 役員Nさん以外の思いについても注目して考えられると良い。
- 資料が膨大なので、焦点化する必要がある。
- 昔は、子どもの役の倍率が高かったことも話合いに生かせると良い。
- 役員Nさんの思いを語れる児童の姿が見られると良い。

<講師の先生より> 元石川小学校 野間 義晴 校長先生

- 300年続いていることを子ども達にどのように示すのが大事である。
- 距離や時間、人口の問題だけではない。
- 価値観の変化にも注目すると良い。
- 役員の人たちの決断や思いをクローズアップした資料の見せ方や授業の流れになると良い。
- 300年間の伝統の中で、価値観の変化や継承していくために大人が演じるか他地域から子どもを募るかなどを考える思いや願いに焦点化させていく必要がある。単に人口の増減が問題ではない。
- 300年ずっと続いている価値をどうやって示していくのかを考え、資料を焦点化していく必要がある。

文責 佐藤 安世 (北綱島小学校)